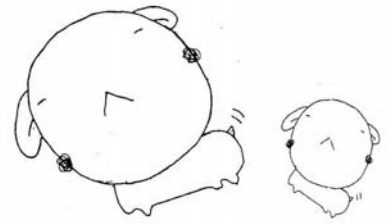


すま しょうがいしゃ ちいきせいかつ しえんせんたー つうしん
すま障害者地域生活支援センター通信 第3号

まちのゆめ



〒654-0023 神戸市須磨区戎町3-5-1 発行:平成18年 1月 1日

☎078-735-3833 / FAX078-735-3834 / E-mail : shien-center@suma-shakyo.or.jp

今号のもくじ



巻頭所感	1
《すま障害者地域ネットワーク会議》	2
わたしのゆめ・あなたのゆめ	4
まゆみのキャンパスライフ～Part II	6
作業所探訪 Vol.2「せいいいサービス」	7
今月のまちかど情報《講座・ギャラリー》	8
イラスト 松本絵里奈(垂水養護高等部)	

サンガイ・ジウネ・コラギ・・・みんなで生きるためだ

すま障害者地域生活支援センター 所長 瀬戸 昭

新年明けましておめでとうございます。

今年のゆめといいますと、四月から実施される障害者自立支援法の施行を、利用者も事業者も、行政も関係者もみんなが元気で乗り越えて、それぞれの持てる力を、生き生きと発揮できることだと思えます。

いずれにしろ、みんなが厳しい状況を乗り越えていかなければならないわけですが、この法の目的である、「**障害者及び障害児がその有する能力及び適正に応じ、自立した日常生活または社会生活を営むこと**」「**障害の有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現**」が達成できるよう、共に力を合わせていけたらと願っています。

年末の神戸新聞で、**岩村昇さん**が亡くなられたと報じられていました。岩村さんは、ネパールをはじめ、貧しいアジアの人々と「共に生きる」ことを目標に、PHD (Peace, Health and Human Development) 運動を展開されていました。以前に読んだ岩村さんの著書である『**山の上にある病院**』の本の中のことばがとても印象的でした。

「ネパールにほれこんでしまった。ヒマラヤの自然だけではない。むしろ自然と戦いつつ融合している人間が大好きになった。**あの結核キャラバンの、長い、歩く山旅の中で、赤の他人の老人を気軽に背負ってくれた、**(倒れている一人の老婆を、通りがかりの一青年が、三日間も背負って、三つの山を越して運んでくれた)ゆきずりの旅の青年。

『サンガイ・ジウネ・コラギ**(みんなであらういは、いっしょに・・・生きるためだ)**』と日当も受け取らずに去って行った。サンガイ・ジウネ・・・みんなで生きあう生命の尊さ。戦う条件が厳しいだけに、素朴な助け合いがにじみ出てくる人間関係の美しさ。・・・わたしはネパールの人たちからどれだけ教えられたことか。」

「サンガイ・ジウネ・コラギ・・・みんなで生きるためだ。」

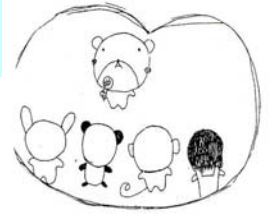
そういう心持を今年のゆめとしたい。また、このまちのゆめとしたいと願っています。

すま障害者地域ネットワーク会議は

公開シンポジウム～障害者自立支援法を共に考える～を終えて

(2005年12月24日(土)午後、須磨パティオ健康館「パティオホール」にて開催)

障害者自立支援法が成立し、これからの障害者の生活がどうなっていくのか、またどうすればいいのか、地域の中で共に考えていこうということで、このシンポジウムを企画しました。参加者は、226名。この問題についての関心の高さが感じられました。



講師及びコーディネーター 東洋大学北野教授が・・

「障害者自立支援法を使って、地域で自立生活をするために」と題して、法律が成立したからには、この法律を使って障害者があたりまえの暮らしをしていけるように戦略を練ってもらいたいと話をされ、この法律の9つのポイント・課題についての説明がありました。これからは世界的にみても、施設からグループホームの時代である。訪問調査員のレベルが勝負。2009年に介護保険の統合も合わせて見直しがある。どんな政治家を選ぶかがたいせつ。福祉サービス職員の雇用条件が悪化している。厚生労働省は「常勤率」制度と「人件費比率」制度を導入すべきである、等の話をされました。

シンポジストは・・

(岡田さん・当事者) 精神障害者は、まずなりたくてそうなったんじゃない。精神障害者にとって、作業所は、最低限必要な場所である。作業所の安い給料の中から利用料をとられ、通院費も上げられ、自立のために必要な年金や貯えもとられられる。作業所に行けなくなれば、家や病院に閉じこもることになる。負担を最小限にしてほしい。役人も政治家も、自分がそうなったときのことを考えて動いてほしい。

(三木さん・親の会) 本人部会より育成会への抗議文書「わたしたちに関係のあることを決めるときは、必ずわたしたちの意見を聞いてから決めてください」、「障害者自立支援法は、所得の少ないわたしたちにさらなる負担を求め、地域で生活するためのサービスを使いにくくするので、絶対に反対です」などの意見紹介がありました。利用料の実日数計算、栄養士任意設置、年間行事もかなり縮小を余儀なくされるなど、サービスが低下しないかと不安。「人間としての尊厳」が具体的に反映される障害者支援を、心から願う。

(高野さん・施設) 日額制により収入が下がれば、パートやアルバイトの職員が増え、サービスの低下を招かないか。昼食代をとることによる給食提供の見直し。利用者負担が作業工賃を超えることになれば、障害者の働く場の意義がなくなる。施設体系の機能別再編によって施設はどうなっていくのか。通所施設の利用者の生活はどうなるのか。不安材料が山積み。施設の大改革をしないと施設の存続はない。

(横田さん・神戸市) 必要なサービスを受けられるようにしたい。新制度が始まりますが、皆さんの意見を聴かせていただき、変えるべきところは国へ要望していき、制度変更も検討していく必要があるかもしれません。費用負担については、さまざまな軽減策が打ち出されており、制度活用を行い適正な費用負担で利用していただきたい。新制度のことでわからなければ、《出前トーク》を活用していただきたい。地域生活支援事業については、国のガイドラインを見た上で検討していきたい。これから始まる障害者自立支援法をいい制度としていきたいと考えております。

会場からは・・

(下崎さん) 「手話通訳料を、自分でお金を払って負担しなければならないのはおかしい。無料を続けてほしい。皆さんと一緒にあたりまえの生活をしていきたい。聴覚障害者の状況を知ってほしい。生存権の保障、あたりまえの生活を求めていきたい。」や、**(高岡さん)** 「施設で作業工賃のいい仕事をとるために神戸市として協力してほしい。」などの発言がありました。

北野先生が・・

うまくコーディネートをしてくださり、参加者にとっても、障害者自立支援法の概要、課題、障害者の生活実態がはっきりしてきたのではないかと思います。これからの法律の見直しに合わせて、地域の中でこの問題を共に考え、みんなの力でこの法律をよりよいものにしていこうと締めくくられました。

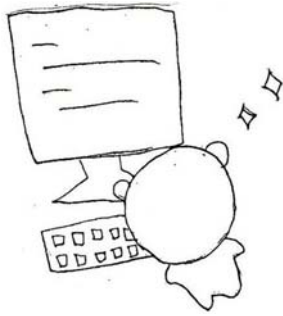
アンケートには・・

「今回のシンポジウムをきいて、すべての人が生きやすい社会を作ることの重要性をあらためて確認できた」「“自立支援法”をきっかけに、みんなにとって生きやすい社会について考えていきたい」「貴重な機会を得た」等々多くの積極的な意見が寄せられました。そして、今後のネットワーク会議の活動への期待として、障害者福祉に関する情報発信や、講演会開催等の希望が多くありました。

すま障害者地域ネットワーク会議は、今後もこのような機会を作っていきたいと思っています。

いろいろな取り組みをしています

**ホームページ
を開設します！**



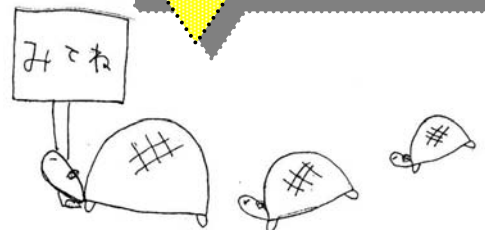
！ホームページ完成間近！

ネットワーク会議を広く皆さんに知っていただくための情報発信の拠点、「すま障害者地域ネットワーク会議」のホームページが立ち上がります。中身は盛りだくさん。参加団体メンバーの紹介、行事予定の案内、活動報告、メンバーが思いをつづる随想、区内小規模作業所の自主製品案内、リンク集、さらに「すま障害者地域生活支援センター」のページも。このホームページをご覧いただければ、ネットワーク会議のすべてが分かる!! そんな充実した内容にしようと、現在鋭意準備中。おそらく全国的にも斬新な試みと自負しています。開設は本年3月の予定です。みなさんご期待くださいね。

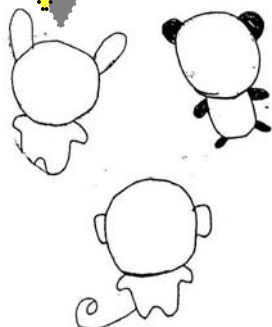
《SUMAPPLE～すまっぷる～》

3月に、区内の福祉関係団体の情報を集めた福祉ガイドマップ《SUMAPPLE～すまっぷる～》を発行します。ネットワークメンバーの活動の紹介のほか、みなさんとの交流を深めるためのイベントの案内、作業所の製品の紹介、ボランティアの募集など、いろいろな情報が盛りだくさん! 《SUMAPPLE～すまっぷる～》を通して、みなさんと、イベントなどいろいろな場で楽しい出会いがいっぱいありますように!

**発行間近です!
福祉ガイドマップ**



**施設見学会
をしました!**



～地域で暮らす～

2005年11月25日、赤穂市内の『赤穂精華園』を訪れました。知的障害のある方の入所施設ですが、「地域支援課」が市内10ヶ所にあるグループホームのバックアップを行っているのが園の大きな特長です。毎日の支援の実際を含めた講義を受けた後、町なかに点在するグループホームを分かれて見学し、参加者それぞれが地域支援の実際を学び考える貴重な機会を得ました。一人ひとりの「地域で暮らしたい」という想いをていねいに受け止め、地域を巻き込みながらできていく仕組み(ネットワーク)こそが、だれもが安心して暮らせる生活の場、地域社会の発展へと繋がっていくのでしょうか。次回も多くのメンバーの参加をお待ちしています!

「公開シンポジウム」「ホームページ開設」「福祉ガイドマップ～すまっぷる～」「施設見学会」これらの事業は、独立行政法人福祉医療機構(高齢者・障害者福祉基金)助成を受けて行われています。

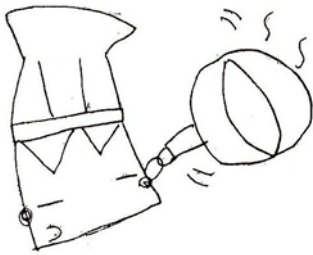
わたしのゆめ
あなたのゆめ

ま・か・せ・て・く・だ・さ・い

♡ 小学校の先生と中学校の先生と
クッキーやさんになりたい！
(めいしょ さやか * 8さい)

♡ テレビにでたいです。のどじまんで
歌をうたいたいです。かねが鳴らしたいです
(中田 明美 * 32歳)

♡ なにかスポーツがしたい。
楽しい毎日が送りたい。
(藤井 一雄 * 61歳)

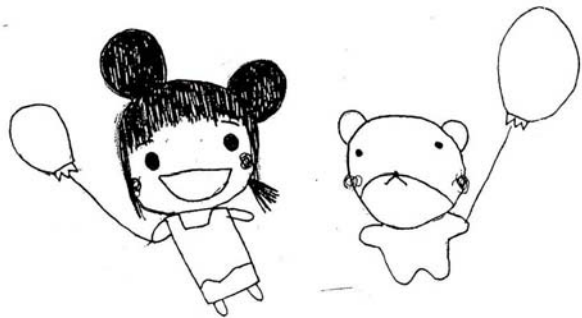


♡ 氷川きよしさんと
浅草と、ディズニーリゾートに行きたい。
(そが ひろみ * 23歳)

♡ ひとりでいろいろできるようになりたい。
東京ディズニーランドに行きたい。
(福田 加代子 * 51歳)

♡ KAT-TUNの赤西君と、
原宿と、ディズニーリゾートで、
デートしてみたい。
(東條 康代 * 28歳)

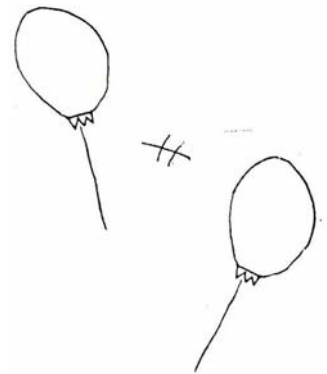
♡ 『夢のない男がいつも 夢をみる
大きなことは できないが
ちいさなことを なしとげた夢』
(池内 正 * 60歳)



♡ 一年間元気に過ごしたい！
(堀田 陽子 * 58歳)

♡ 仕事をいっしょうけんめい
やめないでがんばること！
(岩田 幸子 * 28歳)

♡ 世の中から悲しいニュースがなくなりますように・・・
(上村 和也 * 24歳)



わたしのゆめ あなたのゆめ

こ・と・し・へ・の・期・待

- ♡ 家の改造に伴って、妻が身辺自立が可能になること。
これが一番の望みです。

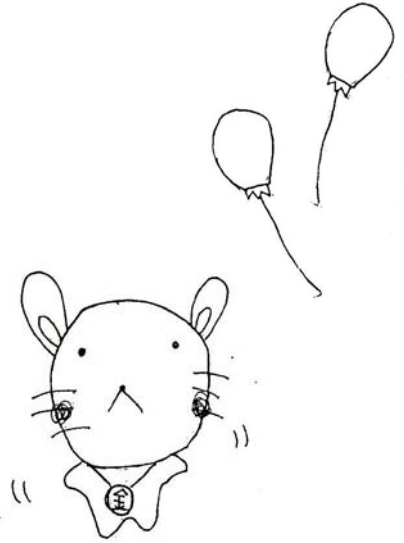
(竹田 信夫 * 57歳)

- ♡ のじぎく国体で優勝して、ぜったいテレビにでて、
金メダルをとりたいです。

(澤 朱音 * 18歳)

- ♡ ジャイアンツが今年こそ復活しますように！

(藤原 夕紀雄 * 39歳)



- ♡ 韓国に行って、ヨン様に逢いたい・・・。

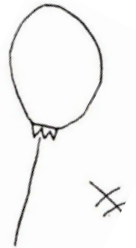
(永野 純子 * もうすぐ50歳)

- ♡ 料理がうまくなりますように・・・。

(荻谷 初美 * 52歳)

- ♡ Kinki Kids のコンサートや
V6 のコンサートにいきたい！

(中保 朋子 * 27歳)



- ♡ 幼いころから鉄道と音楽に興味をもち、現在は真勢流(ませりゅう)という占い師として自立し、2006年から頑張ろうと計画をたてています。人生悩みはつきもの、とよく言われる現代社会。人間関係の相性から人生の転換期を迎えるのは何時、何歳ごろであろうか、家族の相性のなかでうまくいくメカニズムとは何か、対立や意見のへだたりは何故おきるのか、等々を解明・究明するのが、私のこれから目指す仕事です。

お酒もタバコも無縁な私は、音楽ではダークダックスの皆様が大好きです。6年前から新幹線で東京へ一人旅をして、リサイタルやファンクラブの集いに積極的に参加し、多くの方と交流するようになり、世の中が広がったように思います。

身体にハンディがあれば物事を前向きに考えにくいといわれがちですが、私の場合は、ダークダックスさんとの交流が最高の喜びであり、それが励みになり、身体が思うようにいかない辛さを、辛いと思わなくてすむのでは、と思っています。

人生、生きることは何かと大変です。けれど人と人との繋がり、音楽を通じて、あるいは社会へでれば、電車でバスでタクシーで、さらには船で飛行機で、思いがけない出逢いになり、そこから友情の輪も広がるのではないのでしょうか。2006年元気に生きていきましょう。

(望月 昇 * 44歳)

*お寄せいただいた望月様の原稿は、紙面の都合により短くさせていただきます。



まゆみの

キャンパスライフ ~Part 2

松本まゆみ * 19歳

○今年も宜しく

新年あけましておめでとうございます。
昨年7月のセンター通信創刊号から、かなり時間がたってしまいましたが、今年1回目の「まゆみのキャンパスライフ」です。今年もどうぞよろしくお祈りします。

○あっという間に

この前書いた時は、大学に入って間もなかったですね。あっという間に2005年も終わって、気づくともう目の前には2回生という文字が!! 大学生活なんて気づいたら終わってるんじゃないかと最近びびってます。



○飲み会デビュー

学校のほうは慣れました。ちゃんと食堂の場所も分かったし、「ちゅうしば」っていうのが、「中央芝生」の略なんだってことも、ちゃんとマスターしました(笑)。少しずつエンジョイしてきています。

前回、ゼミの飲み会の話を書いたと思います。どうだったかと言うと・・・とにかく、みんなの本性が分かりましたよ。私は、友達に「もうやめときなよ。」って止められて、途中で帰りました。というか、帰らされました。楽しかったのに・・・あっ、でも誤解しないでください。決して私が飲みすぎたのではありませんよ。それから、私が飲んだのは、いうまでもなくノン・アルコール飲料ですよ、まだ未成年ですからね。

○“本分”のお話

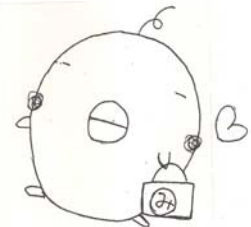
勉強は、というとなかなか手ごわいんです。小・中・高よりも勉強に苦しんでいます。というよりは、周りについていくのにいっぱいいっぱいなだけです。楽しいし、得ることも多いですけどね。英米専修なので、英語ばかりです。たまに、第二外国語でとった朝鮮語(韓国語)があるので、英語、英語、朝鮮語、英語、英語という時間割だったりします。

でも、身に付いているのかは、実感がありません。(ごめんなさい、お母さん)

○上昇「運気」に乗って

さて、キャンパスライフに慣れてきたところで、今年は色々と挑戦しようかなと思っています。この前、細木数子さんの本によると、金星人のプラスは、大殺界から抜け出して今年はいいことがあるはずなので。次回の“キャンパスライフ~Part 3”には、私の挑戦していることについて書こうと思います。今は何をしようか思案中です。

それでは、みなさんにとって今年がすてきな年となりますように♥



小規模作業所探訪 vol. 2

せいれいサービス

第2回目は社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団の『せいれいサービス』をご紹介します。

歩み 『せいれいサービス』(心身障害者小規模通所訓練施設)が開設されたのは平成2年4月、今から15年前のことです。知的に障がいのある人の就労、生活、社会参加を支援するための福祉施設「神戸聖生園」の受け皿としてスタートしました。「神戸聖生園」は養護学校の卒業生に席を空けるため当初5年の有期限という方針で運営してきた知的障害者通所授産施設。従って、施設を出た後、就労できない方のためにつくられた小規模作業所なのです。開設当初、ほとんど同園の利用者さんが「せいれいサービス」に移行。ほぼ利用者さんの入れ替わりはなく現在に至っています(定員10名、現在利用されているのは9名)。



紹介 地下鉄「妙法寺駅」または「名谷駅」から市バス(73)系統「友が丘」下車すぐの、「神戸聖生園」「神戸友生園」「神戸愛生園」のある広い敷地内にあります。他の小規模作業所と違いは、自主製品の製作を行っていないところです。

身体に障がいのある方が介護を受けて暮らす身体障害者療護施設「神戸愛生園」の清掃・洗濯と、敷地内の除草が主な作業内容です。作業日は平日9時～17時、土曜は午前中の交替制。

9時までに休憩室兼食堂の建物で着替えを済ませ、午前は「神戸愛生園」建物の共用部分と個室の清掃、午後は洗濯(17時まで)か敷地内の除草(16時まで)を交替で行います。除草は、夏の炎天下でも真冬のどんなに寒い日でも休めません。雨天のときは、除草班は「神戸聖生園」の授産(箱折りなど)の作業をします。

昼食は皆がそろって食堂で給食をいただきます。同作業所の利用料金は昼食代込みで15,000円/月、平均工賃は20,000円/月程度だそうです。

利用者の声 代表で2名の利用者の方にお話しを伺いました。まず女性のYさん。「仕事はしんどいです。でも洗濯は好き。毎日休まず仕事をしています。お給料を貰うのは嬉しい。お給料で雑誌を買います」。

つづいて男性のFさん。「がんばっています。洗濯作業が好きです。今度のお給料では家族にクリスマスプレゼントを買います。この仕事をずっと続けたい」とのことでした。Yさん、Fさんお仕事中にインタビューに答えてくださってありがとうございました。

障害者自立支援法施行に向けて



障害者自立支援法の施行が本年の4月ですが、それに向けて「せいれいサービス」がどう変わるか、高野國昭施設長に伺いました。支援法の施行により施設の名称・形態・提供するサービス内容・補助金も全て変わってしまいます。「せいれいサービス」は定員20名の非雇用型就労継続サービスへの移行を考えているそうです。その際、「神戸聖生園」「やさかだい分場」「第二やさかだい分場」と「せいれいサービス」の利用者さんの意向を十分に踏まえないとのことでした。工賃の目標設定があること、給食費の食材単価が低いこと、そして利用者の方の定率負担。頭が痛い

ことが多くこの激変期をどう施設として法人として乗り切るか大変だとおっしゃって「これから家族会でその説明をします」と席を立たれました。

住所 〒654-0142 須磨区友が丘1-1 **電話** 791-2001 **FAX** 795-0197

1月のまちかど情報

第6回 いたやど・まちかど講座 『アルコール依存症を学ぶ～飲まないで生きる』

- ◆ お話：梶山 都志夫さん
(小規模作業所「ぼちぼちはうす」所長)
- ◆ と き：1月28日(土) 14:00～15:30
- ◆ と ころ：すま障害者地域生活支援センター
(地下鉄板宿駅 南④出口すぐ)
- ◆ 定 員：20名
- ◆ 申込み：☎735-3833/FAX735-3834

お酒は百薬の長。でも、飲みすぎると、さまざまな問題をひきおこします。

みなさん「アルコール依存症」という病名を聞いたことがありますか。

どんな病気なのでしょう。

板宿の市場の中に依存症者のデイケアを行なう小規模作業所があるのをご存知ですか。

講師の体験もまじえて、病気のこと、回復への取り組みなどをまなびます。

まちかどギャラリー

《 登貴子 個展・新たなる心象 》

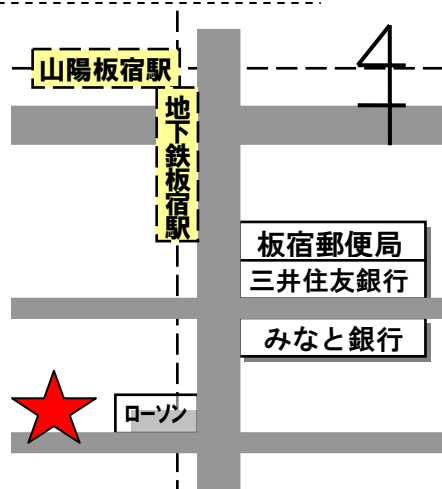
- 期 間 ■ 1月23日(月)～1月29日(日) 10:00～16:00
- 場 所 ■ すま障害者地域生活支援センター



1926年生まれの下垣内登貴子さん。60代から油絵を描き始め、呼吸機能障害になってからも絵筆を握りつづけています。

すま支援センターの事業内容

- * 地域生活に必要な制度やサービスの情報提供や、利用のお手伝い。
- * さまざまな内容のご相談の受付。
- * 支援費制度の相談・受付・調査。
- * ピアカウンセリングの実施。
- * 地域啓発事業の実施
(まちかど講座・まちかどギャラリー)



編集後記

また新しい春が。みんなでいっしょに、ゆめへ向かってゆっくり進んでいきたいですね。イラストの松本絵里奈さん(大池町)に加え、今号から、センター通信のテープ録音を、小田由美さん(若草町)が協力くださっています。

通信へのみなさまのご意見や原稿をお待ちしています。(N)